

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2020年9月 NO.217

【もくじ】

- 2～3 ドラム缶との出会いが僕のミュージックへの旅でショー！…山村誠一
- 4～5 高知県のオオサンショウウオ（下）…町田吉彦
- 6～7 ソムリエール…井上智賀
- 8～9 人との出会い・教え子も同行の同志…門田雅人
- 10～11 見て楽しい被って嬉しい帽子たち…山本正子
- 12 「アンテナ」『桐島、部活やめるってよ』に出演話…下尾 仁
- 13 第191回市民映画会
- 14～15 風俗歳時記・風伯

ドラム缶との出会いが僕の ミュージックへの旅でシヨ―!

山村 誠一

韓国のターミナルに降り立った

らキムチの匂いにする。日本はお味噌の匂いかな? その国はガソリンの匂いにするって…本当にしましたよ。カリブ海の南の端、二つの島からなる小国、トリニダード&トバゴ。ドラム缶楽器ステイルパン発祥の地。

一九八六年、NEW YORK 滞在中にストリートで演奏している黒人のパンプレーヤーに遭遇。ガッインと一発「こりやヤバイ、叩きたい。」帰国後独学で奏法を模索し、

一九九七年二月トリニダード&トバゴへ渡りカーニバルを体感。基本的な奏法、リズムや現地の音楽の役目、取り組みなど様々な角度から異国文化を吸収する。それまでコンガ、ボンゴなどラテン系打楽器を演奏していましたが、その響きとメロディー楽器への憧れは私の音楽人生に多大なる影響を与えました。

○ステイルパンって

ドラム缶をすり鉢状に凹ましてその内側に音盤ごとに凸が並んでいます。音盤が大きいと低い音、小さいと高い音が出ます。音域によって様々な種類がありまして、メロディーを担当するテナーパンはドラム缶一台で二オクターブ、その音域から低くなるに従って音盤の面積が大きくなり、ドラム缶も二台、三台そしてベースパンは六台のドラム缶を一人で操り演奏します。

まだまだ日本での演奏家は少なくて店頭にたくさん並んでいる楽器屋さんもないですし、聞いたことのない方は「ドラム缶の楽器って、ガンガン、カチャカチャ喧しそう」ってイメージがあるみたいですね。

○楽器演奏の遍歴その一

十歳頃ギター弾いたり、フォー

クソングを真似したりが始まりかな。学校の授業でタテ笛とか小太鼓とかは楽しくなかったですね。自由勝手に演ったら怒られた(笑)。そりゃそうですね。

その頃自分のお小遣いで買った初めての洋楽のレコードは「The Beatles の『Let it be』」でした。ラジオで英語の音楽は聴いていたものの、何度も同じ曲を聴ける喜び、そうなる歌詞も覚えて器楽演奏も覚えてベースの音やドラムのおかずも聞き覚えで、どの曲もモノマネできるようになって、なんならそれが趣味だったなうって今になって思います。ってことはドラムもベースも弾いて遊んでおりました誠一少年は音楽が大好きだったのです。

そんな中、十七歳の時、先輩に騙されてサックスを手にする。吹奏楽ではなくJAZZの方向ですよ。聴いたことのないのよ、譜面も読

めないですよ。ロックな編成って同じ楽器が少なかったですが、初めてパートやらアンサンブルやらの音楽用語を知った。譜面も読めるようになった。四ビート以外にも色んなリズムを吸収し、好きなSAX奏者がソニー・ロリンズさんにとどろき、名曲『St. Thomas』を吹けるようにね、なっていくのです。で、コンボ(小編成)での演奏ってアドリブパートを終える他の楽器の即興時はお休みでして、手持ち無沙汰やなうどうしようかな? 踊っちゃう? いやいやちゃうちゃう。で無意識にカウベルを叩いた。楽しかった。んっ? なんや楽しいやん。きたきた。



押尾コータローさんと筆者

○楽器演奏の遍歴その二

初めて買った打楽器はアゴゴカウベル(音程が二つあるカウベル)でして、リズムが明るくなる喜びとあるスタジオで練習の時、隅

っこにコンガがあって何気にポンポンって叩いたら、スタジオのスタッフが「興味ありますか?」で人生の岐路へ。ままと布教活動に捕まってしまい。サルサって音楽のビデオを観せられ「僕らの練習おいで」に参加し、ギロをこすったり、マラカスを振ったりでSAXの鍛錬にはない単純な繰り返しに心躍る快感がやってきたのです。きたきた!! 打楽器好き好きだ。SAXを手放しコンガを購入。やばいハマった。二十二歳おもしろい切った方向へシフトチェンジしてね、これでもいいのか? って考えないよ



11/26 かるぽーと 高知出演チーム
「高知カリビアン・ハーツ」

○高知へつながら喜び

一九九六年、高知の山間の村・旧吾北村で十歳の子供たちを祝うイベント『てんさい集まれ! 10年式』に演奏の機会を頂きました。その前の年に映画『絵の中のぼくの村』を観ていまして、そのロケ地にある日本一のやぶ椿、シャクジョウカタシ、を見学している傍で、脱穀作業をしているおばあちゃんが「おまんなにしゅう?」

誠「音楽を子供達に届けに来ました」お「ほっつ、わしら生まれてこのかた生の音楽聴いたことない」誠「今ちょっと演奏しましょうか?」お「かまん、今忙しいいき」生の演奏聴いたことない、そっか、そんな人達いっぱいいるんだろな。

そして、この地区で音楽会でき



ないかな? ご年配の方達に聴いて頂きたく提案し、一九九七年「吾北・カタシの花祭り」が始まった。一回目の演奏にはアコースティックギタリスト押尾コタロー君と共に出演。

二〇〇一年、その会場になった上東小学校校体の活用策として二〇〇五年にステイールパンの教室「パンの学校」が始まりました。今年十五周年を迎えたパンの学校の皆さんと押尾コタロー君、そして僕が音楽活動をする上で多大なる影響受けておりますラグタイム・ブルースの巨匠有山じゅんじさんをお迎えして演奏会をいたします。

ドラム缶楽器ステイールパンの音をまだご存知のない方、もちろんよく知っている方達も『山村誠一ミュージックショー』乞うご期待ください。

やまむら せいいち

一九六〇年 大阪生まれ。
一九八〇年代パーカシヨニストして活動開始。

一九九〇年代ステイールパン奏者として、作曲家として現在にいたる。リーダーバンド、ソロ含む過去十三枚のCDをリリース。アコースティックギター、押尾コタローとのDUOアルバムからは、大阪毎日放送ラジオ「こんちわコンちゃん」テーマ曲、NHK・TVの背景曲などで使用され、有線放送のパンチャネルには約四百曲ライブライされている。有山じゅんじ、中村善郎、二階堂和美、他CD制作や公演にも参加。二〇一五年第一回ステイールパン世界大会に日本代表メンバーとして参加し九位入賞。劇団四季「LION KING」大阪公演に楽師として出演。
コンサート活動の傍らRKC高知放送の番組にレギュラー出演等、演奏のみならず幅広く活動している。
ホームページ
<http://saezuni.net/>
Facebook <https://www.facebook.com/saezuripan/>
Twitter <https://twitter.com/saezuripan>

山村誠一 ミュージックショー
祝☆還暦

日時 11月26日(木) 18時半開場

19時開演

会場 高知市文化プラザかるぽーと小ホール

高知県のオオサンショウウオ(下)

町田 吉彦

二〇〇二年から、のいち動物公園とわんぱくこうちアニマルランドの職員が調査を開始し、二〇一五年からは新メンバーも加わった。基礎となったのは、内水面漁協と市町村教育委員会を対象としたアンケート調査と報道記録で、約十例が自然分布を示唆すると判断されたようだ。野外調査では、マイクロチップの利用により、同一個体が同一場所で複数回確認されるなどの成果が得られた。ただし、このような例は定住ではあるが、自然分布の証明にはならない。

二〇〇四年七月に、前年に成体が確認されていた越知町の坂折川^{さこりがわ}で幼生が一個体発見された。坂折川は仁淀川の一次支流である。二〇一五年から二〇一七年にかけて、四度にわたり離散幼生が確認され、卵塊の発見と併せて、四国初の自然繁殖例として報道されるに至った。ただ、私にはどう考えても在

来種とは思えなかった。自然分布と自然繁殖は異なる。数ある仁淀川の支流で、なぜ坂折川なのか、という疑問はすぐ頭に浮かぶ。

二〇一九年に入り、県環境共生課が移入種リストを作成することとなった。オオサンショウウオが県内在来種であれば絶滅危惧種であるが、移入種であれば絶滅危惧種を含むレッドリストの対象外である。そこで、レッドリストの改訂を待つ必要はないと考えた。むしろ移入種リストの新規作成時がチャンスである。

私の頭の中では、伝承がないこと、確認例は単独個体がほとんどで、自然分布の確認でないこと、県内には化石の記録がなく、在来の純淡水魚の種組成が四国で化石が発見された地方と異なること、唯一の自然繁殖例が坂折川のみであるのは極めて不自然であるという筋書きは成り立っていたが、移

入であるという決定的な記録・文献がないままであった。

十月であつたらうか、学生時代に地方紙で報道されたのではなかったかとの記憶が突然、頭に浮かんだ。私事で恐縮だが、私は一九六五年に高知大学文理学部に入學した。一貧乏学生が新聞を購読する時代ではない。そこで、六十年代、旧窪川町、四万十川、オオサンショウウオで報道記録があるかないかを高知新聞社の知人に問い合わせてみた。ずいぶん大胆なキーワードであるが、すぐに応答があつた。四件ヒットしたとのこと。翌日、本社の一階でオペレーターにお願いし、記事をダウンロードしてもらつた。その後に記事がもう一つ見つかったのであるが、これらは既往の文献にない貴重な内容を含んでいた。そこで、以下に見出しと概要を紹介する。

一九六七年五月八日付け
特別天然記念物オオサンショウウオ
東又川でみつかる

四国にはいないとされていた生き物
発見・捕獲は五月六日。発見場所は旧窪川町の東又川。水深三十センチ。発見者は二十九歳の農業の男性。体長約八十センチ。鑑定は蒲原稔治^{としじ}高知大学名誉教授。蒲原博士は数年前に、県下でオオサンショウウオが見つかったことがあつたと語つた。この件について県文化財課に問い合わせたが、記録はないとのことであつた。

一九六八年五月二十七日付け
オオサンショウウオ捕える

発見日は二十四日。発見場所は旧窪川町井細川上流(原文は井西川であるが、誤植)。同町川口の武市氏(三十歳)と同本町の南部氏(十八歳)がニジマス釣りで発見、捕獲。体長六十三センチ。

一九六八年七月二十一日付け
オオサンショウウオ

窪川で相次ぎつかまる
学会の定説くつがえるか 県教委も調査へ

発見は五月十七日。発見場所は旧窪川町松生原^{ひさばら}の井細川上流。発見者は高校一年生。アユ釣り中に発

見、捕獲。体長五十三センチ。

発見日五月十八日。発見場所は旧窪川町東又川。発見者は県立帰全農場二年生の二名。コイを突いて

いる時に捕獲。体長八十三センチ、体重五・三キロ。

一九六八年八月十五日付け

窪川町でオオサンショウウオ調査

自然繁殖ではない

中国地方から持ち帰ったもの

県教委保護呼びかけ

現地調査の結果、東又川の二個体は、東又土居の農業山中某氏が一昨年の夏、体長約五十センチの個体を広島県から持ち帰った。大雨で逃げた個体が捕獲され、一個体は桂浜水族館へ、もう一個体は帰全農場へ。井細川のケースは、旧窪川町出身で岡山県在住の女性が繁殖を思い立ち、持ち帰った。四個体、体長約五十センチ。二個体は小学校で飼育していたが、一個体は逃げ出し、残りを放流。

一九六八年九月十三日付け
オオサンショウウオ始末記(筆者・

山脇茂美氏)

東又川の二個体は山中氏が広島県湯来町(現広島市)で捕獲し、東又川の上流で飼育していたが逸失。後に再捕獲。井細川の個体は岡山県蒜山原の産で、その後、四個体

すべてが確認され、雌雄が確認されたことから、井細川での自然繁殖の可能性が出てきた。

以上が高知県におけるオオサンショウウオの最初の記録である。

当事者が名乗り出て、体長と放流数を記憶していたことが何より重要で、記録として申し分ない。これらの記事から、高知県のオオサンショウウオは外来種であると確信するに至ったのである。

さて、話を坂折川の自然繁殖集団に戻そう。旧窪川町の「事件」が繰り返し報道されたにも関わらず、当時、越知町からは何の情報提供もなかったようだ。調査で自然繁殖を確認した人たちは、地元集落で「昭和一桁の頃から生息していた」との証言を得たが、この証言は在来を意味するであろうか？

実は、仁淀川の生物に関しては愛媛大学の伊藤猛男愛媛大学教授(当時)が魚類を中心に徹底的に調査し、一九八五年に成果を公表した。魚類以外では、源流域の小型サンショウウオ類に言及したものの、坂折川のオオサンショウウオに関する記述はない。その理由として、資料収集時期が桐見ダム建設と重複していたことが考えら

れる。ダムの着工は一九六九年、竣工が一九八八年で、工事期間は同規模のダムの約二倍である。魚類の調査もままならなかったのは確かであろう。しかし彼の報告には見逃してはならない記述がある。

嶺南区の純淡水魚類相が貧弱なことは既に紹介した(文化高知No.216)。実は、一九二五―二六年(大正十四―十五年)に嶺北区の吉野川から仁淀川にオイカワが移植されたのである。さらに吉野川からは、同様に嶺南区にはいなかったカマツカ、スナヤツメ、ギギも持ち込まれたと記述されている。仁淀川も恐らく例外ではないが、琵琶湖産の稚アユの放流が各地で始まったのは大正の半ばごろで、水生動物の長距離輸送手段が昭和一桁の時代には確立しており、移入は珍しい出来事ではなかったと言える。

誰が坂折川にオオサンショウウオを放流したかは分からないが、淡水魚の運搬よりはるかに楽である。吉野川にはもともとないと考えられることから、四国外からの持ち込みであろう。繰り返しになるが、なぜ嶺南区の仁淀川、しかもなぜ一支流だけに繁殖個体群が存在するかの合理的な解釈は、

移入以外にあり得ない。複数の個体が放流され、生息に適した地形があったとしたか考えられないのである。

このような考えをまとめ、県内の関係者に伝えたところ、関連学会で坂折川の個体の遺伝子が京都市産のオオサンショウウオのそれと極めて近いという発表がなされたと聞いた。いずれ学術論文として公表されるだろう。

さて地域の生物多様性保全から見て彼らをどうするか？大問題である。(原稿受理日 令和二年一月十二日)

まちだ よしひこ

一九四七年 秋田県生まれ。高知大学名誉教授 理学博士。
高知県希少野生動物保護専門委員、高知県文化財専門委員、環境省希少野生動物植物保護専門委員など。
専門は水生動物学、地域の自然史科学。

No.215～216(上)(中)のタイトルの記載に誤りがありました。正しくはオオサンショウウオです。

ソムリエール

井上 智賀

一番初めにワインに触れたのは、現在の会社で働きだしてからだ。入社した際に配属になったのが、

フランス料理のレストランであり、ワインに触れる機会が増えた。専門学校時代にホテルコースを専攻しており、働く前からフランス料理の調理法やカクテル、ワインについて少し勉強をしていたが、働きだして実際に触れる機会が増えると興味も沸くようになってきた。また入社当初、レストランの店長がソムリエの資格を持っており、憧れもあった。その後、配属部署の異動もあり、ワインに触れる機会が減った。

他の部署の業務を経験する中で、やはりフランス料理やワインに対する興味が強くなり、またワインは料理と合わせる事によりその魅

力が広がるという事も知り、ワインの勉強をするようになった。

ソムリエの資格を取得するまでに勉強をした時間は、トータルで三年くらいだ。たまたま図書館で見つけたソムリエ試験用の問題集で勉強を始めたのが最初である。その本で勉強をしたのは一年くらいだと思う。基本的な事をノートに書き写し勉強をしていた。しかし

かし実はその本は少し古い年度の問題集であり、ある程度基本的な事を勉強した後は本屋で新しい年度の問題集を購入した。そしてついにソムリエ試験へ申し込みをし、申し込むと届くソムリエ教本と問題集の二冊で勉強を始めた。試験に申し込みをしてから試験日まで半年くらいだったと思う。

現在、ソムリエ試験は一次、二

次、三次試験まで設けられており、ここ数年で難易度が上がっている。私が受験した当時は一次、二次試験までであり、一次が筆記試験、

二次がティステイングとサーブス実技の試験であった。筆記試験は、だいたいが四択のマーク式問題であり、本屋で購入した問題集も四

択で問題が記載されているものだったので、問題を見て分からないものは教本から答えを見つけたという方法で勉強をしていた。またカタカナが多く、暗記だけではなかなか覚えられないものもあったので、そういったものはノートに何回も書き、手で覚えていく方法も取り入れた。そして一次試験を受けたのだが、残念ながらこの年は合格をする事ができなかった。自分ではある程度勉強したつもり

だったが、やはり努力が足りなかった。悔しい気持ちもあったが、初めて受けた試験だったので試験の雰囲気をつかむ事はでき、割と前向きに受けとめる事ができた。ソムリエ試験は年に一度なので、翌年に挑戦する事を心に決めた。

そして迎えた翌年二度目の試験日、合格できなかった日から一年間勉強をしてきた成果が実り、無事に一次試験を合格する事ができた。一次試験合格後、二次試験までは二か月／三か月ほどだったと思うが、早速二次試験の対策に取り組んでいった。二次試験対策としては、ティステイングの勉強に力を入れた。

皆様もご存じのとおり、ワインはぶどうから造られるお酒だが、ぶどうの品種や造られる土地、気候などによって味わいが変わる。

ティステイングの勉強を始めた頃、私はワインの味の違いに関してはほぼ素人だった。この際に私に指導してくれたのが、入社当初に配属になったレストランの店長で、ソムリエの資格を持っている上司だ。二次試験までに五回ほどはマシントーマンで指導をしてくれ、今でも感謝してもしきれない存在である。



ワインは上司が代表的な品種のものを選り、ブラインドでテイステイングするというものだった。テイステイングの手順は、まずは外観の色合いなどをチェック、次に香りを分析し品種を絞っていく。この段階である程度の品種に絞り、最後に口を含み最終判断をする。しかし、これも始めのうちは的外れな分析ばかりしており、回数を重ねるうちに少しずつ慣れていった。

テイステイングの勉強を始めた際、教えてもらった事で今でも覚えている事がある。それは「その

ワインがどういった料理に合うかを考える」という事だ。試験では外観、香り、味わいを確認しそのワインの品種が何かというところまでの分析だったが、「どんな料理に合うかというのを考える」という事は今でもテイステイングをするうえで心に留めている事である。

また別の上司より、同世代のソムリエを紹介してもらい、その方が毎月一回ワインの勉強会を開いているという事で、そちらの勉強会にも参加した。この勉強会でもブラインドでテイステイングをしていき、そのワインについてのコメントを一人ずつ発表していくという方法をとっている。参加人数は五、六名程度で、他の人のコメントを聞くというのも、自分では感じ取ることのできなかったワインの特徴を発見する事ができ、良い勉強になった。二次試験を受けるまでに、この勉強会へ参加できたのは一回のみだったが、現在でもこの勉強会には参加しており、ワインの勉強を始めて新しい人脈ができた事も大きな財産となっている。

そして二次試験を迎え、周りで支えていただいた方々のおかげも

あり、無事に一発合格をする事ができた。しかし、どんな資格もそうかもしれないが合格すれば終わりではなく、資格を取得してからが本当の挑戦が始まったように思う。お客様の好みに合うワインをお勧めするのも初めは難しく、現在でも勉強中である。しかし資格を取得したことによりたくさんのお客様に顔を覚えていただく事もできた。お客様の好みのワインを選ぶ事が出来た時は本当に嬉しく、やりがいを感じる。まだまだ勉強中ではあるが、今後も努力を続けていきたい。

これからだんだん寒い季節になってくると、フレッシュなワインより熟成したコクのあるワインが飲みたくなります。秋は食材も豊富であり、例えば松茸は焼いたり天ぷらにするならシャンパーニュがおすすすめ。きのこをバターで炒めるならコクのある白ワイン、カリフォルニアのシャルドネなどがよいと思います。牛肉の赤ワイン煮込ならコート・デュ・ローヌのシラーなど。高知の代表食材と言えはやはり鰹だと思えますが、こちらはしっかりめのロゼワインもおすすすめです。以前ホテルでワイ

ンのイベントを開いた際のメニューに、鰹を洋風にカルパッチョ仕立てにしたものがありました。こちらは長野県の塩尻メルローロゼがとてもピッタリでした。味付けにもよりますが、シンプルな味付けのものには軽めのワイン、しっかりと味付けをしたものには重めのワインを合わせるとよいです。食欲の秋をワインと共に楽しんでください。

いのうえ ちか

一九八七年生まれ。

高知西高等学校卒業。

広島ビジネス専門学校 ホテルコース卒業。

現在は、ザクラウンパレス新阪急高知カフェ「ブラシヤンティ」勤務。

人との出会い・ 教え子も同行の同志

門田 雅人

私は、干支で言う子年、夏には七十二歳を迎えようとしています。今春二月を最後に教壇に立つ仕事を締めくくりました。仕事以外では保育園や小学校での絵本の読み語りを十年余り続けていましたが、コロナ禍に子どもたちのふれあいを取り上げられてしまいました。

教職員時代は幼年期教育と美術教育を研究や実践の主軸にしてきました。採用二年目に小学一年生を担任したこと等を、若さを恥じるとともに懐かしく思い出します。

☆ ☆ ☆

「文化高知」との出会い、幡多郡西土佐村公立小学校勤務の青年教師だった頃『素顔の子どもたち』と題してNo.27～No.29に連載させていただいたことです。その中で、卒業を控えた子どもたちの自立や決意を語る姿を紹介しました。保育士や教師になる夢、デザイナーを挙げた子も工業高校を経て父親と電気工事をやりたいと語った子もいました。私は当時の子どもたちの現在を確かめたことはありません。しかし、ただ一人、朋彦君のことはとても気がかりでした。

連載では【朋彦君は農業後継者

になることを胸を張って発表した。大学の農学部に入って専門的に研究をした上で、父親のやっているハウス栽培を發展させたいというのである】『彼等の胸は希望にふくらんでいるように見えた。努力を重ねた上で獲得した自信だったろう。願わくば、彼等の故郷であるこの農山村に愛着を持って生きる子が二人、三人と続いてほしいものだ』と記述しています。卒業式の保護者席で父親が号泣していたことは強く印象に残っています。

朋彦君は生真面目な努力家でした。日記には家庭での農業に関係

したことを綴ることが多かったと記憶しています。しかし、有名校立中に進学して夢を実現する選択肢は全くありませんでした。地元中学校に進学した彼は実直に学習を継続しました。そして、進路指導の先生の導きで愛媛大学附属農業高校を選択して初心を実現しようとしたのでした。さいわい、当時の附属農業高校は、試験点数至上主義ではなくて農業に対する情熱や信念も重視していました。

保護者の意向や本人の意思を尊重して、進路指導の教師と受け入れ側の高校の協働が朋彦君の夢の実現への扉を開いてくれたのは素敵なことです。彼は現在、地元の公務員として卒業式の決意を實現した活動を真摯に展開していると聞きました。

子どもはいつまでも子どもではありません。親にとっても教師にとってもやがて大人として立ち現われ尊敬に値する同志として共に生きていく仲間です。自尊感情を大切にして進路についても本人が責任をもって努力できるために、

大人は頼りになる伴走者になることが理想です。本人の適性や希望に応えることを放棄して進学先で成績順に振り分けるだけが仕事であれば、教師とは本当につまらない職業です。

☆ ☆ ☆

教師経験を問い直させられたのは高知大学非常勤講師としての十年間だったように思われます。大学では、特別活動教育を担当してきました。学生にこれまでの学校生活で強く覚えていることを尋ねると、進路指導に関係した学業等教師の丁寧な指導以上に、圧倒的に体育祭や文化祭、修学旅行、合唱祭や学級活動の場面を挙げます。教科学習と生活学習の両立こそが楽しい学校生活を保障すると言えるでしょう。

たとえば兵庫県の中学生職業体験の取り組みを紹介して検討したことがあります。阪神・淡路大震災の経験と神戸連続児童殺傷事件をきっかけに導入されたものです。教科学習を一定期間犠牲にして実践する取り組みで、賛否両論

あることは承知の事例でした。当事者であった兵庫県出身の学生が多く受講していましたが、職業体験を評価する意見がほとんどでした。

高知商業高校生徒会の『ラオスに学校をつくる』活動も新聞記事などを活用して紹介しました。商業高校の特性を活かして生徒参加の株式会社活動や商店街での販売など生徒会が主役となって展開している取り組みです。成果として推薦入学枠が設定されたとも聞いていました。驚いたことは、紹介した新聞記事に登場する生徒会役員だった生徒たちがこの授業を受けて講じていたことです。本人たちも喜んでくれましたが現在進行形の授業展開をしている自分のことも褒めたい気分でした。

県立農業高校もよく取り上げました。体育祭の看板製作展示は完成度の高さと相まって風物詩として定着しています。国語教師・名東涼さんの実践も紹介しました。地元新聞読者欄や読書感想文等各種団体企画への投稿、そして日常

的な書き綴る指導の方策を名東さんのレポートを借用して紹介しました。農業高校らしい題材が魅力的で、全国コンクール銀賞の文章は説得力のある体験と地域づくりの意義を展開していました。嘘のような話ですがこの銀賞受賞者が私の授業を受講していました。本人の授業感想レポートからその事実を知った次第です。

☆ ☆ ☆

大学には、これ以上の奇遇はないと言える学生がいました。小学校入学式を共にした子どもが進学してきたのです。私が四十町米奥小に校長として赴任して初めての入学式、新入生は六名でした。六年後、二〇〇九年に彼女たちと卒業式を迎えました。彼女たちが取り組んだ「総合的な学習」や学校・地域が協働した活動を「文化高知」No.145～No.148に連載させてもらったのが昨日のこのようです。

彼女は地元の高校を卒業して地域協働学部に入學してきました。授業では再会することはありませんでした。彼女たちが小学六年

生の折に作成した「総合的な学習」のパワーポイントを、時を経て彼女と同じキャンパスで私が授業に活用している情景を不思議に感じました。受講する学生が彼女と同年代で同じ時代に育ってきたことから、授業では共感や反響を呼び起こしました。

何よりうれしかったのは、彼女が小学生の頃学んだ地域学習や地域との協働を、迎地小規模の学校から高等教育での専攻内容まで大切に継続している姿を見たことでした。幼年期から思春期まで、発達課題と学習課題をどのように分析して教育実践するのかを考えてこられたことは幸せなことでした。出会った子どもたちが、主体的に人生を切り拓いている姿は限りない喜びです。

かどた まさと

一九四八年 四万十市西土佐生まれ
一九七二～二〇〇九年 高知県教育職員

二〇一〇～二〇二〇年 高知大学
教育学部非常勤講師

見て楽しい被って嬉しい帽子たち

山本 正子

未曾有の新型コロナウイルス禍の影響、心からお見舞い申し上げます。

私の仕事は帽子を中心とする服飾雑貨（帽子、バッグ、アクセサリ）のデザイナー兼作家です。使う方がその人らしくチャーミングになるお手伝いをするのが仕事です。デザイン、製作、販売まで行う、デザイナー兼クラフトマン兼スタイリストです。以前は一人で全てをやっていたが、今は協力して下さる方たちとワークシェアリングをしながら活動を少しずつ変化させています。

二年前から鎌倉在住ですが、引越す前の二十五年間は高知に住み高知が故郷と言えるくらい土佐弁も上達し友達にもお客様にも恵まれました。一口しか食べきれな

かった鰹のたたきも今では大好物で、疲れたなあと感じたならニンニクたっぷりで頂きます。高知以前の十九年間は、東京で企業の服飾雑貨のデザイナーとして修業後、独立し、主にコマースヤルなどの服やアクセサリをデザイン制作していました。お蔭様でこの道、四十三年になりました。

平坦な道ばかりではありませんでした。深い谷底は東京から高知に移住した最初の一年間余り。今のようにSNSや物流も盛んではなく、早割の航空券の恩恵もなく、友達もおらず、高知市内から車で小一時間かかる場所で暗澹たる思いで過ごしていました。行くところは、自動車免許を取得するため、の教習所と図書館以外は見つからず、本の中に逃げ込む日々でした。

一年くらいたったある日、ほとんど会話をしたことがない図書館司書の松林佳子さん（故人）が話し掛けてきました。「東京で帽子とかのデザイナーをなさっていたそうですね、良かったら図書館の展示会ホールで展示会をしてみませんか。」との思わぬお誘い。家人に相談をしたら「出来ると思うのならやってみたら」という返事に、私の頭の中の歯車がカタカタと目まぐるしく動き出しました。松林さんにOKの返事と共に、帽子が描かれた童話やテーマになっている本を探して欲しいとお願いをしました。本からイメージした帽子を創り、図書館にいらっしゃる老若男女に喜んで頂けたらという思いからでした。「おしゃべりな帽子たち」と題した初め

ての展示会は大成功でその後シリーズ化し、デパートでの展示会はもとより夢だった海外での企画展へと発展していきました。良い方たちとの縁で奇跡的な復活でした。高知時代を振り返り出会った方々に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

今、コロナ禍で出張もままならない大変な状態ですが「明けない夜はない」という思いでいます。生まれ故郷の沖縄の言葉「ナンクルナル（やるだけやったら、なんとかなる）」と、肝が据わっていられるのも年齢を重ねたこともありですが、この時の経験があるから



幕末の志士たちの帽子ー山本正子×高知県立坂本龍馬記念館

ハワイコンベンションセンター

The hat of the mentor of the Bakumatsu - Hawaii Convention center

だと思えます。

さて、質問です。高知で一番帽子の似合うイケメンは誰でしょうか？「わしじゃ！」と答えた方には申し訳ございませんが、私の答えは「フクちゃん」。この原稿の依頼主、高知市文化振興事業団がある、高知市文化プラザかるぽーと「横山隆一記念まんが館」に住んでいる下駄を履いて角帽を被る男の子、フクちゃんです。角帽が早稲田大学の制帽に似ていることか



らフクちゃんは早慶戦のマスコットとなり、産みの親の横山隆一氏とフクちゃんは早稲田大学の特別卒業生となったと聞きました。明治時代、大隈重信が一目で早稲田の学生とわかるように考案した角帽、もし、フクちゃんが違う形の帽子を被っていたら展開もまた違ったことだったでしょう。

では、帽子の似合う女優さんと言えどなたでしょうか？私は迷わず「オードリー・ヘップバーン」と答えます。映画『マイフェアデュー』のオードリー扮するイライザは花売り娘の時には、雨に降られても大丈夫そうなカンカン帽、教育を受けレディに変身した彼女がアスコット競馬場に現れるシーンでは、大きなブリム（ツバ）にドレスと同じストライプのリボン飾りのブロードブリムハット、男



性陣はシルクハットと、職業や場所が服や帽子に連動していきます。

帽子は顔に近い分大きな役割を発揮します。エラが少し張ったオードリーはクラウン（帽子の頭部の部分）の形が角ばったカンカン帽のような形が良く似合います。

帽子を選ぶ時、彼女のように四角い顔の人は四角いクラウン、丸顔の人は丸いクラウンと覚えておく。と帽子を選ぶヒントになるかと思っています。帽子は上手に被れば素晴らしい変身アイテム、マイナスをプラスに変えてくれる魔法の小道具です。私が帽子に魅了された原因はそこにあるのかもしれませんが、私たちの身近にある服飾（衣服や装身具類）が流行だけでなく、社会においての属性―時代、地域、



階級、職業、学校などを表し、文化を強調したりします。その服飾の一部である帽子に少しでも興味を持って頂ければ幸いです。

「見て楽しい被って嬉しい帽子」をモットーに、無心に創作の世界に遊び、お客様を笑顔にするサービス業と心して当たり、生涯現役を目指していきたい所存です。

最後までお目通し下さり、ありがとうございます。コロナ禍に負けずにご機嫌良くいきましょう。

やまもと まさこ

一九五六年那覇市生まれ。鎌倉市在住。

帽子作家、服飾雑貨デザイナー。

アトリエ・マジックジャ代表。

文化服装学院ハンディクラフト科卒。

企業の服飾雑貨デザイナーを経て渋谷区で独立。CM用衣裳、帽子など制作多数。

一九九三年から二十五年間高知で暮らし、企業からの受注発注の仕事から個人への発信型に変え、国内外で帽子の個展や展示即売会を展開。

「アンテナ」 『桐島、部活やめるってよ』 に出演話



下尾 仁

周波数を合わせば、いろんな人と出会い繋がる事ができる。アンテナを高くたて沢山の人と繋がろう。

文化高知No.214にて、屋久島へのヒッチハイク旅の途中、映画『パーマネント野ばら』の撮影隊に宿毛で会い、そして自分も出演すると書かせてもらったが、実は僕が屋久島に到着した日、映画スタッフから連絡があり、僕の出演シーンの撮影が十日後の予定であったが明後日になったので来れますか？と言われた。いやいや屋久島に着いたばかりで無理です。映画に出られないのは残念ですが、すいませんと出演を断念した。

それから二年後『パーマネント野ばら』の吉田大八監督が、またも高知で映画を撮影することになり、もう僕の事など忘れていたのだらうとオーディションを受けに行

くことにした。オーディション会場で吉田監督は、「ちよっとゾンビをやってみて」と注文してきた。あまりゾンビ映画を見たことはなかったが、ウーウーとゾンビになりきってみると、吉田監督は、「君、ゾンビ見てるねー」と褒めてくれた。いや見てないですとは言わず、僕はゾンビ役選ばれた。帰り際に吉田監督は、次は撮影来てね♡と僕の事を覚えていてくれた(すいません)。

撮影当日は十二月、体も芯から冷える寒い日、朝五時半に中央高校集合、特殊メイクに二時間程かけ、十時ぐらいから屋上での撮影。

この『桐島、部活やめるってよ』は、学校内の誰もが認めるスター桐島がバレーボール部を辞めるというニュースが校内を駆け巡ったことにより、影響を受ける周りの人間たちの同じ時間軸を、それぞれ

れの視点で繰り返し描き進んでいくストーリーで映画のタイトルでもある桐島は一回も出てこないという何とも不思議な青春映画である。僕の出演シーンは主役の神木隆之介さん演じる前田涼也の妄想で、イケてる学生たちをゾンビが次々と咬み殺すという、原作にはない映画ならではのクライマックスシーンであった。

お昼休憩になり携帯を見ると、母から着信があった。折り返しかけてみると、家の水道管が破裂して水がジャジャ漏れしているので早く帰ってきて修理してと言われて。早く帰って修理したいのはやまやまだが、ゾンビメイクがばっちり決まっているし、いつ自分の出番が来るかわからない。母に、「取りあえず水道の元栓を閉めておいて。なるべく早く帰る」と伝えた。

それからの撮影は水道の事が頭から離れず、早く終わらないかなあと、ずっと考えていた。屋上でのシーンだったので日が落ちれば撮影は出来ない。しかし撮影はぎりぎりまで続き、僕にとっては長いながーい一日となった。

撮影も無事終了。メイクもきれいに落としてもらい、急いで家に帰り、水道修理。ほっとため息。

二〇一二年劇場公開になった『桐島、部活やめるってよ』は飛ぶ鳥を落とす勢いで、この年の日本アカデミー賞の最優秀作品賞を含む三冠を受賞するという快挙!! パンフレットにもばっちり写り込み、しばらく自慢させてもらった。あれから八年経つが、水道管の破裂はない。



真ん中が筆者

しもお ひとし

一九六九年生まれ。

岡豊高校一期生。二十五歳ぐらいに演劇に目覚め、日夜面白い事はないかとキョロキョロしている。

第一九一回 市民映画会

日本全国の映画館は緊急事態宣言により休館し、映画業界も最大の危機に直面した。

昭和二十六年の高知市立中央公民館の発足と同時に始まった六十九年の歴史を持つ市民映画会も新型コロナウイルスの影響により延期となった。

市民映画会は、これまでも様々な状況により存続が危ぶまれることもあった。ともすれば消えようとする映画文化の灯をともし続けたのは、高知の人々の映画に対する強い愛着、映画会を楽しみに参加する大勢の市民の支えがあったからこそである。

今回、六月に予定していた上映会の中止についても惜しむ声を多くいただき、延期開催が決まった。日時は、九月二十四日(木)・二十五日(金)、上映作品は『ベル・カント』と『わかれのアリア』『おしえて！ドクター・ルース』の二作品。

『ベル・カント』

一九九六年にベルーで起きた日本大使公邸占拠事件からヒントを得て作られた作品。史実と異なる部分もあるが、ベルーの貧困問題



© 2017 BC Pictures LLC All rights reserved.

や、大きな経済格差が生む争いがこの映画の核となっている。それは心優しい人間であるのに、社会問題を解決できず自らの生活を守るため武力に頼るしかない現実に対し、戦争を無くしたいと願う平和への祈りが込められている。出演は、ハリウッド俳優として活躍する渡辺謙、実力派俳優の加瀬亮、そして物語において重要な役割を果たすソプラノ歌手を演じるジュリアン・ムーア。日米の豪華キャストによる感動の人間ドラマ。

『おしえて！ドクター・ルース』

米国で最も有名な九十歳のセックス・セラピストであるドクター・ルースのドキュメンタリー映画。過激な性の相談にも、包み隠さず

アドバイス。ドイツ生まれの彼女の人生は決して平坦ではない。ナチス政権下で孤児となり、生きていくためにスナイパーも経験、三度の結婚等々。それでも人生を恐れず前を向いていくポジティブな生き方は、見ただけで彼女に元気をもらえること間違いなし。また、一九八〇年代に猛威を振るったエイズに対する偏見や差別をなくすため戦う彼女の活動は、コロナ禍の現状とも重なる部分があり、社会に蔓延する偏見や差別をなくすことを人々に問いかける作品。

市民映画会では、今後も安全対策を講じながら心に響く作品を届けていきますので、心の栄養補給にお越しください。



高知市立中央公民館事業 第191回市民映画会

9月24日(木)・25日(金)

高知市文化プラザかるぽーと大ホール

主催 市民映画会運営委員会・高知市教育委員会・公益財団法人高知市文化振興事業団

上映時間	
ベル・カント	ドクター・ルース
10:45	12:50
14:45	16:40
18:35	
開場10:15/終了20:18	

料金 一般前売券1,300円 一般当日券1,500円

割引券1,000円(学生証、長寿手帳、障害者手帳などをご持参の方は割引料金)

※障害者手帳をお持ちの方で介助が必要な場合は、介助者1名まで割引料金。

前売券販売所

高知市文化プラザミュージアムショップ、高新プレイガイド、県民文化ホール、高知県立美術館ミュージアムショップ、金高堂書店 本店、サニーマート(とさのさと御座・高須・神田・瀬戸・土佐道路東・六泉寺・あぞの・中万々・山手・サニークシス南国・サニークシスいの・高岡・伊野)お問い合わせ 高知市文化振興事業団 088-883-5071



高知を撮る

第36回写真コンテスト入賞作品

去年の写真

(令和元年10月20日 須崎市野見)

八井田 晋

野見神社秋祭り、毎年このバスの待合所で御興渡御を見物する地元の老婦人、去年撮ってあげた写真をかざして大喜びの表情をパチリ。

定年退職すれば、人里離れた温泉宿に逗留し、好きな本を読みふけるというのが夢だった。ゆっくりと湯につかり、山里の風景を眺め、美味しい酒を飲みながら読書に時を忘れる。深い癒やしと読む快楽。二つ同時に手に入れたいと願っていた。ところが、退職と同時にコロナ禍がピークに達した。どこにも行けない。祝い事も無期限延期となって、こんなときに定年とは、と同僚から同情されるはめとなった。

さすがにしばらくは悶々と引き籠もっていたが、やがて奇妙な楽しみを発見した。実家（ゴミ屋敷化しかけている）の整理に通ううち、近くの川辺に素朴な木製のベンチがあるのを見つけた。忘れられたような人気のない場所、ここなら感染リスクもなかりうと思われた。しかも木陰にある。そばに寄ると、やさしい風が吹き渡り、岸の低木と野草の緑が視野の果てまで広がっていた。

腰をおろして、昼食をとりながら本を読んでいた。読める！スムーズに、とはいかないが、けっこう読める。食べ終わっても読み続け、気が

アウトドア読書



風俗歳時記

つければ「至福のひとつ」をすごしていた。癒やしと読書の醍醐味を同時に味わった。以来、「アウトドア読書」にハマっている。読書にあきると散歩をする。歩きながらも無意識にベンチを探すようになった。まるで山奥に「秘湯」を求め歩くように。

高知には人気のない小さな公園が無数にあると、このとき初めて気がついた。公園には、たいがい「木陰のベンチ」が付属している。そのうち、もつとぜいたくな「施設」の存在を知った。東屋である。公園や小高い丘ちよつとした広場などに時々、置き忘れられたように屋根のついた小さな建物が建っている。「屋根付きベンチ」と言ってもいい。こういう「施設」に行き当たると、知られざる「名湯」を発見し、独占したような気分になる。

（本の虫）

第88期高知市民の大学

県下の生涯学習のパイオニアとして今年で創設44年目を迎える「高知市民の大学」。今期も県内外から講師を迎え、皆さんと共に様々な問題を学びます。

火曜日 総合コース

「食の安全性」 2020年10月6日～2021年1月26日

金曜日 総合コース

「障がい児・者の生活を通して地域福祉のあり方を共に考える」

2020年10月2日～2021年1月22日

各コースとも全15回 18:30～20:00 かるぽーと11階中央公民館大講義室
※各回の講義テーマや講師については、高知市文化振興事業のHPや市内文化施設等に設置の募集要項をご覧ください。

【お申し込み・お問い合わせ】

2020年9月1日(火)よりかるぽーと8階・高知市文化振興事業団で受け付け。

定 員：各コース50名（先着順）

受講料：1 コース2,800円、両コース一括4,800円

1 日だけの受講も可能 各回500円（要事前申し込み）

〒781-9529 高知市九反田 2-1

高知市文化振興事業団 TEL 088-883-5071

風伯

医学の五大流派

哲学好きの友人に刺激されて、昔か
しかったことがある何冊かの哲学本をば
らばらと読み直していて、ヒポクラテ
スという人物をすっかり忘れていた。
「無知の知」を提唱していまでは「哲
学の祖」といわれるソクラテスとほぼ
同じ時代を生きた。

この「医学の父」といわれるヒポクラテスの時代に医療の五大流派があっ

たという。簡単にいうと、それは自然療法のナチュロパシー、心理療法のサイコパシー、同種療法といわれるホメオパシー、針、灸、マッサージなど整体療法のオステオパシー、そして対症療法、薬物療法のアロパシーといわれている。

このなかで、いま西洋医療としても
っとも普及しているのが最後のアロパ

シーである。他の療法はなぜ廃れていたのか。ある人にいわせると、このアロパシーがもっとも儲かるからだという。そればかりではないにしても、一理ある。

癌にしても、いま欧米では次第に少なくなっているのに日本では急激に増加している。他の成人病も同じである。あたかも医学の発達と反比例するように。このアロパシー以外の療法が積極的に試されている欧米では、抗がん剤治療にしてもいまはほとんど無くなっているようである。日本だけが旧態依然とした治療を行っているのなぜなのだろう。

飲むもの、食べるもの、着るもの、寝るものを変え、そして笑い歌い、そろそろ生き方、考え方を変える時期にきているのではないか。他の四つの療法に目を向けるときではないか。安保徹氏はさらに「腸を整える、血を綺麗にする」そして「温める」ことだと「免疫革命」でいっていた。

(霖)

高知市立中央公民館事業
いきいきセカンド☆
ライフ講座

これからの生活「セカンドライフ」に役立つ、面白くて楽しい講義です。

対象は 55 歳以上の方。

令和2年10月13日(火)～令和3年1月13日
(水)13時半～15時、かるぽーと11階中央
公民館大講義室で。各コース全7回。定
員各コース55人。受講料1コース1,000円。

▶火曜日コース…まち歩きの楽しみや高齢者を狙った詐欺被害についてのお話など。

▶水曜日コース…快眠のコツや映画のシーンを見ながら「怖さ」、「面白さ」についてのお話など。

▶金曜日コース…かるぽーと周辺の歴史の風景や村上春樹の『1 Q 84』についてなど。

往復はがきに住所・氏名(ふりがな)・年齢・
電話番号・性別・希望コース(曜日)を記入
し、9月18日(金)必着で郵送。希望者多数
の場合は抽選。定員に達しない場合は翌日
から電話で受け付けます。

【お申し込み・お問い合わせ】

〒781-9529 高知市九反田 2-1

高知市文化振興事業団 TEL088-883-5071

今号の表紙

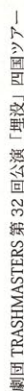
「あふれる読書欲」

池田 美穂

まだまだ暑さが続くとはいえ、暦の上では秋。最近はあまり本を読めていないということもあり、今年こそは「読書の秋」を少しでも意識したいと思いデザインしました。自分だけでなく、表紙を見て本のことを意識してもらいたいとも思っています。私も、時間を見つけて色々な本を読みたいです。

(いけた みほ/
国際デザイン・ビューティカレッジ2年生)

〒781-9529 高知市九反田2番1号
TEL(088)3-5071 郵便振替01680-5-14869



阿南市情報文化センター コスモホール
高知市文化プラザかるぽーと 大ホール

高知市文化プラザかるぽーと大ホール

※本公演は、3密を避けるため、座席間隔をあけて実施する予定です。

入場料 全館自由(日時指定)

一般	前売り3,000円	当日3,500円
高校生以下	前売り1,000円	当日1,500円

※未就学児の入場はご遠慮ください

【Culちや—ず会員価格】一般2,700円 高校生以下900円

【Guちやーず会員特典】先着10名様を本公演に無料でご招待
10月16日(金)までにお申し込みください。

チケット販売所

・かるぽーとミュージアムショップ 088-883-5052

・県立美術館ミュージアムショップ088-866-7653

・ローソンチケット(コード61336)

・チケットぴあ(セブン-イレブン/コード502-262)

補助 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

KUTVテレビ高知、高知市民劇場

主権・お問い合わせ 098-883-5071

088-883-5071

聖賢

TRASHMASTERS vol.32

仁章留津
by 演出·作

子之